

Well-Being指標を活用した 三豊ベーシックインフラ整備事業の推進

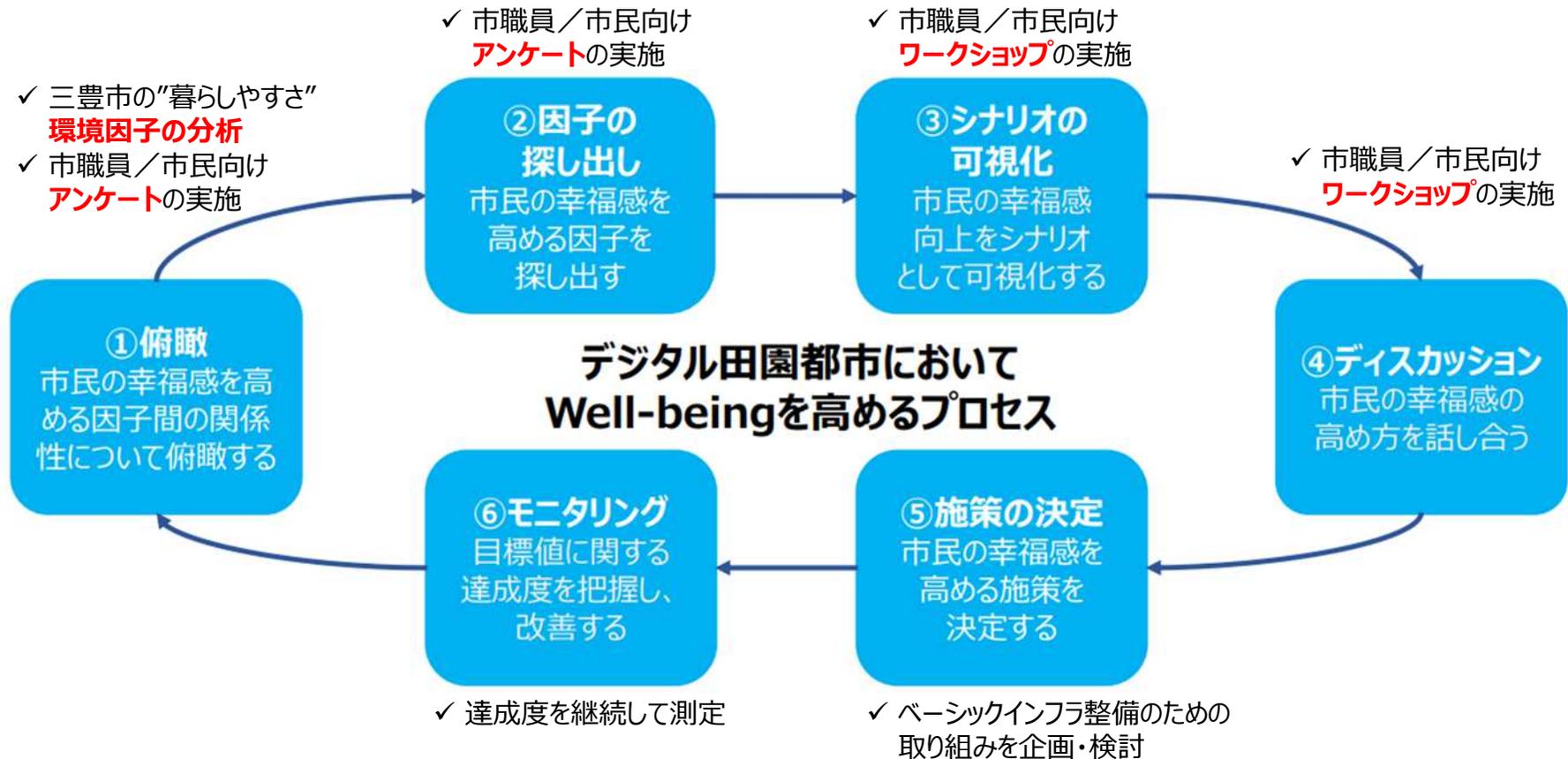


2023年3月30日

香川県三豊市 政策部地域戦略課

Well-Beingを高めるプロセスと今年度の取り組み

慶応大学前野研究室と連携し、LWC指標活用フローに沿ってアンケートやワークショップを実施



出典：デジタル庁「LWC指標利活用ガイドブック」

Well-Being指標の活用に向けた主な取り組み



■三豊市の”暮らしやすさ”環境因子の分析

LWC“暮らしやすさ”環境指標データや自治体保有データを活用し、地域の特徴を俯瞰

三豊市の環境因子



【医療・健康】

- ・高度の緊急医療体制が整った医療機関が無い。三豊市で発生した急搬患者の内、55.1%が観音寺市に搬送。市内病院への搬送は23.8%に留まっている（H27三観広域消防本部救急搬送実績）。
- ・大きな病気・怪我になると市外病院に行かなければならない。
- ・常設の小児科・産婦人科とも、三豊市は0。
- ・現在の住民のスポーツニーズと施設のアンマッチ（もしかすると気軽なジムのようなものを求めているのに、団体競技で調整が必要な施設ばかり）

・運動施設の老朽化

- 【買い物・飲食】近年、飲食店の創業は増えてきているが、他市と比べると数はまだ少ない

【移動・交通】既存の公共交通網が他市と比較してやや劣っている。

【環境共生】環境に配慮したごみ処理

【子育て・教育】・待機児童0人

- ・ここ数年で増加した私立保育園8箇所（小規模5、私立保育園1、こども園2）
- ・大学、短期大学が少ない。
- ・部活動にいくための交通手段が乏しい。

【事業創造】

- ・瀬戸内ビレッジなど民間の取り組みがあるものの、創業・事業創造に特化した政策展開を実施出来ていないため、他市と差が出るような数値の伸びは出ていない。
- ・三豊観音寺の有効求人倍率=1.5倍（R4.6月）。本エリアの求人倍率は全国比非常に高い数値を維持し続けており、企業側から見ると慢性的な人不足が続いている。職種により偏りが大きいため、【地域で「自分がやりたい仕事」を見つけにくい】というのが実態だと思う。

Well-Being指標の活用に向けた主な取り組み



■市職員向けアンケートの実施

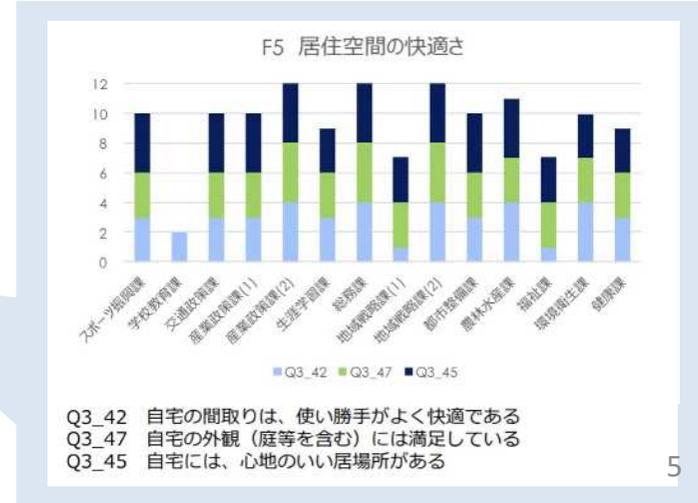
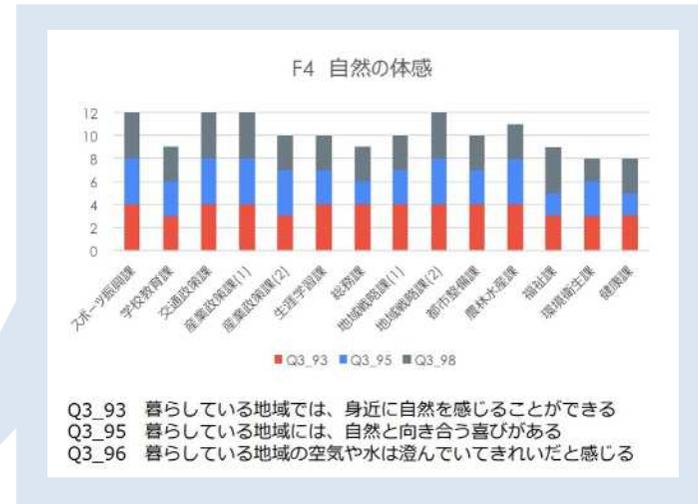
LWC指標「地域生活のWell-Being」のオリジナル項目(82項目)について、市の各課の評価とそれに付随する施策・データを洗い出すためのアンケートを実施

各課の評価 ※一部抜粋



「自然の体感」「居住空間の快適さ」「つながりと感謝」のスコアが特に高い

* F3とF8は反転していないため低い方が良好



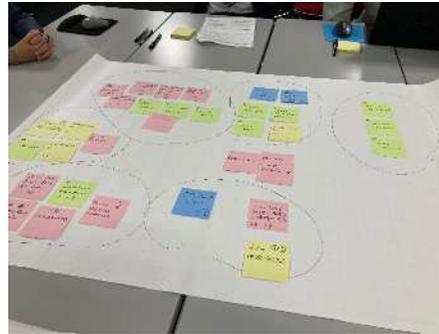
Well-Being指標の活用に向けた主な取り組み



■市職員／市民向けに「地域の幸福のシナリオ」を検討するワークショップを実施



①ウェルビーイングについてのレクチャー
(慶応大前野研究室 井上講師)



②各因子の具体例をプレスト&集約



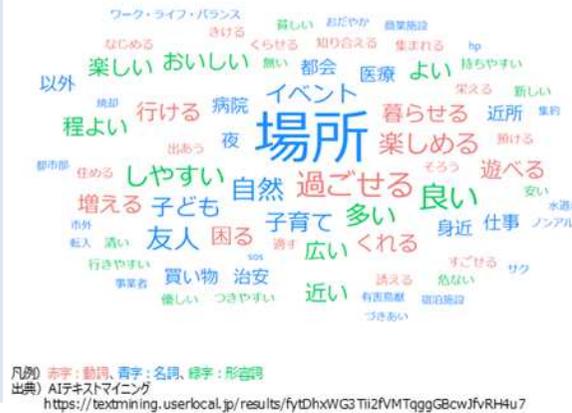
③幸福に至るシナリオをグループ内で議論



④各グループによる議論の結果の共有



出現頻度マッピング



出現頻度上位15単語 (品詞別)

動詞		名詞		形容詞	
単語	出現回数	単語	出現回数	単語	出現回数
過ごす	4	場所	13	良い	4
楽しめる	3	自然	4	しやすい	3
暮らせる	2	友人	4	多い	3
遊べる	2	子育て	3	程よい	2
困る	2	子ども	3	広い	2
増える	2	イベント	3	おいしい	2
行ける	2	治安	2	近い	2
くれる	2	医療	2	楽しい	2
出会う	1	身近	2	よい	2
くらす	1	都会	2	持ちやすい	1
なしめる	1	近所	2	つきやすい	1
過ごす	1	買い物	2	満い	1
知り合える	1	病院	2	楽しい	1
集まる	1	以外	2	行きやすい	1
		夜	2	危ない	1

- ✓ 三豊市の特徴についてグループでプレストし、付箋に記載
- ✓ 付箋をLWC指標「地域生活のWell-Being」の因子ごとにグルーピング

- ※参考：市職員向けWSのプレストの結果から、テキスト分析により特徴的な単語を抽出
- ✓ 名詞では「自然(因子_自然の体感)」「友人(因子_つながりと感謝)」「子育て・子ども(因子_生活の利便性)」という単語が多く、これらの因子の重要性が高い可能性がある
(「場所」は「○○な場所」という用途で使用されるため最頻出となる)

Well-Being指標の活用に向けた主な取り組み



■三豊版Well-Being指標の設計

- 市職員向けアンケートやワークショップの結果を踏まえ、LWC指標「地域生活のWell-Being指標」の80以上の質問項目から、地域にとって重要な因子に関連する質問項目を抽出(A)
- ベーシックインフラ整備事業の成果を測るため、独自の質問項目を追加(B)

〈三豊版Well-Being関連設問〉 ※一部抜粋（設問数全44問）

	項目数	因子名称(仮)	(A)			
F1	20	ダイナミズムと誇り	三豊			
			○			
			○			
			○			
			○			
			○			
			○			
			F2	14	生活の利便性	○
						○
○						
○						
(B)			○			
			○			

Well-Being指標の活用に向けた主な取り組み



■ 市民向けアンケートの実施

市民約300名を対象に、三豊版Well-Being指標をもとに作成したアンケートを実施

〈市民向けアンケート集計結果〉 ※暫定版、一部抜粋

三豊市(全項目)と全国平均比較



現在の生活と5年後の将来の生活への期待



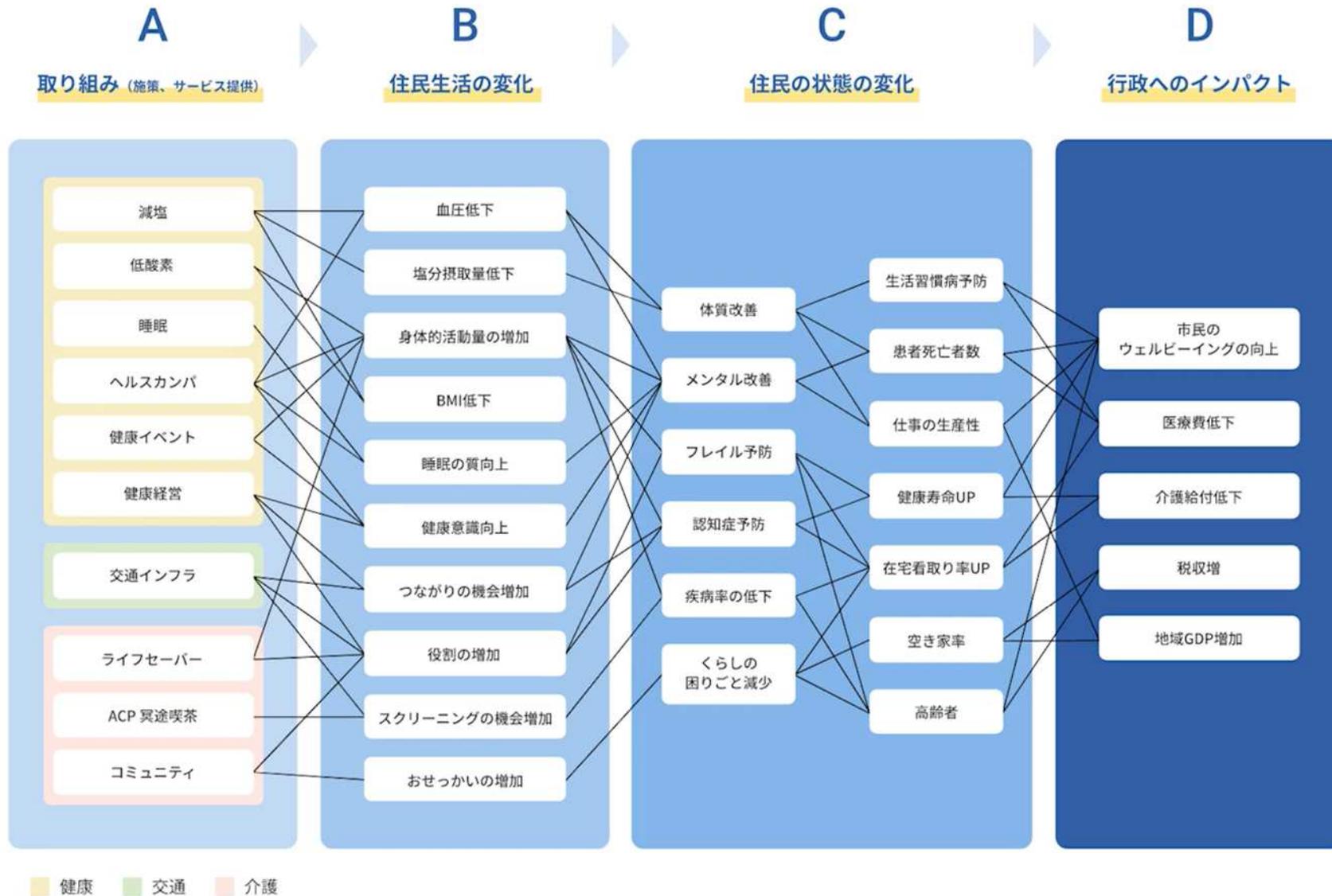
- ✓ 全般的に全国平均や香川県平均値よりも良好な因子が多い傾向
- ✓ つながりや自然の評価が高いが、生活ルールの無秩序さも高い
(=つながりが濃い一方、一部ごみ出しルールなどのマナー面が課題となっている)

- ✓ 若い世代ほど将来への期待が高く、50代以上はやや低くなる傾向

Well-Being向上のための三豊市の取り組み 管理・計測



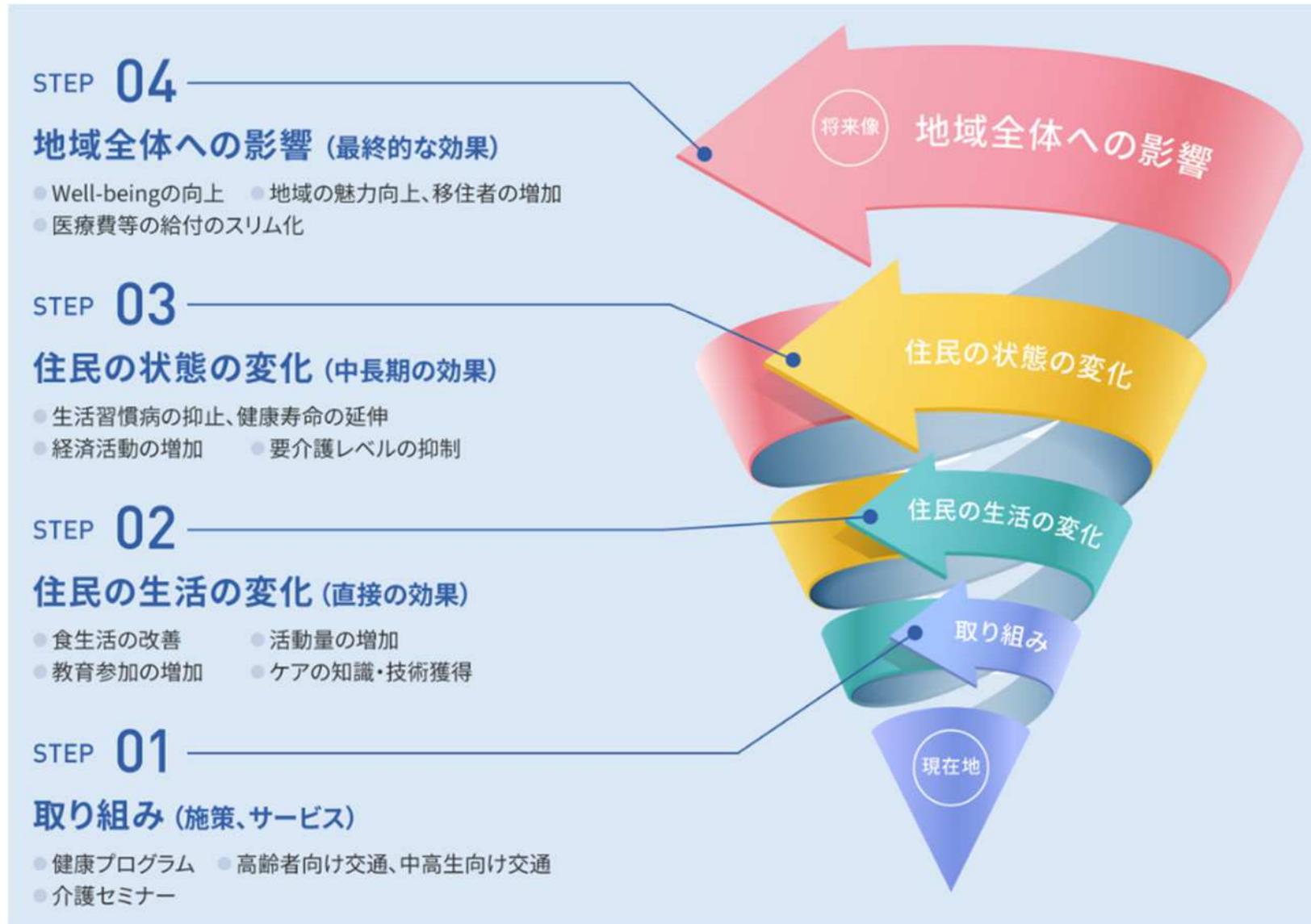
ロジックツリーを作成し、市民のWell-being向上のために必要な「取組み」と「効果」を可視化



Well-Being向上のための三豊市の取り組み 管理・計測



市民が理解しやすいように、取り組みによる効果を**イメージ化**



Well-Being向上のための三豊市の取り組み 管理・計測



「三豊の目指す姿」の実現に向けて行う「取り組み」と、「改善ポイント」を可視化
 様々な取り組みによるソーシャルインパクトを、管理・計測・開示できる仕組みを構築



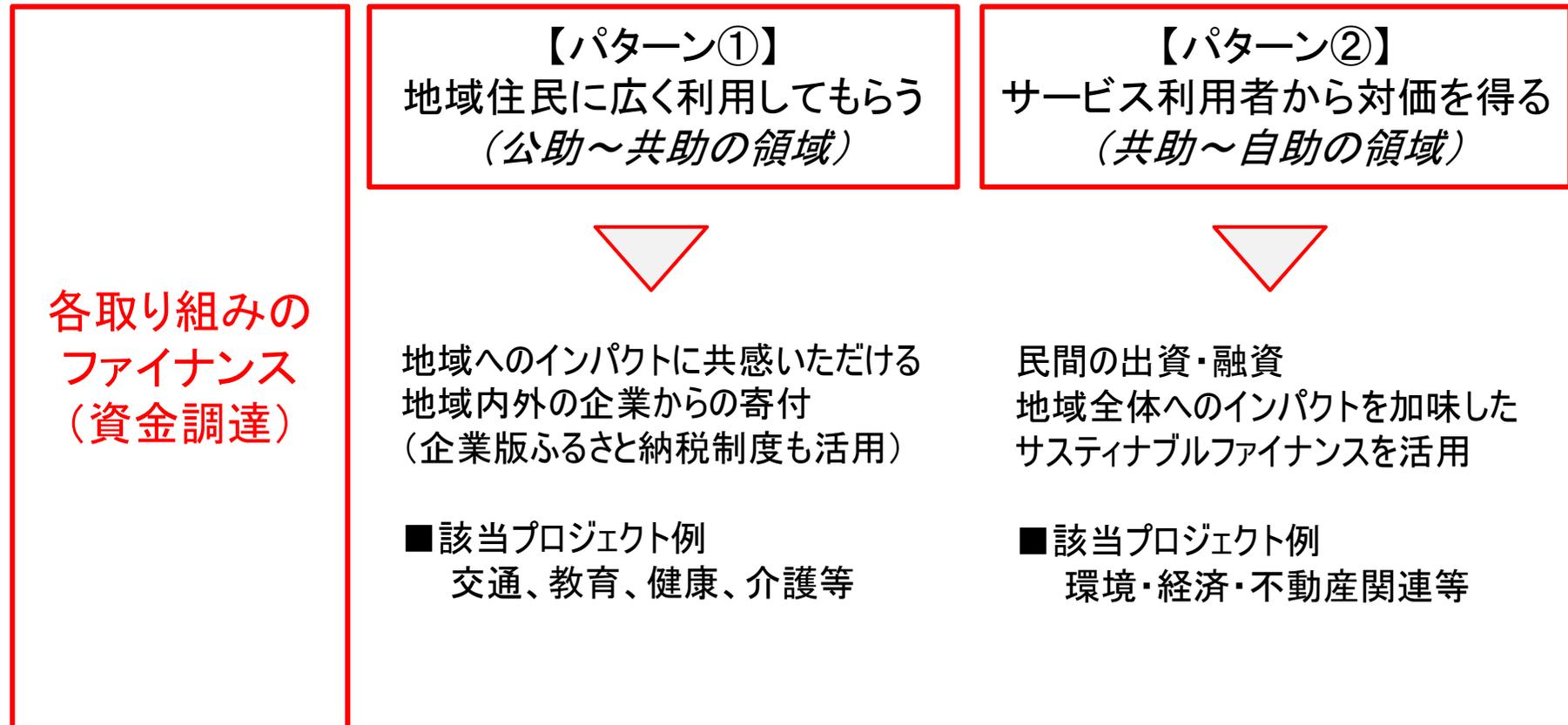
探究 共創
 子どもも大人も皆が意欲的に学ぶ



Well-Being向上のための三豊市の取り組み 資金調達



多様な共助プロジェクトを支えるファイナンスのストラクチャーを検討していく



Well-Being向上のための三豊市の取り組み データ連携基盤の運営（フィナンスターン①）



- 「玉手箱」を活用し、住民が豊かに暮らし続けられるために必要な複数サービスの連携を行う
- 市民生活を支えるサービス群を「ベーシックインフラ」と呼び、整備・実装していく
- 事業データ、Well-being指標の調査結果データを基に施策立案、地域投資を促進していく

